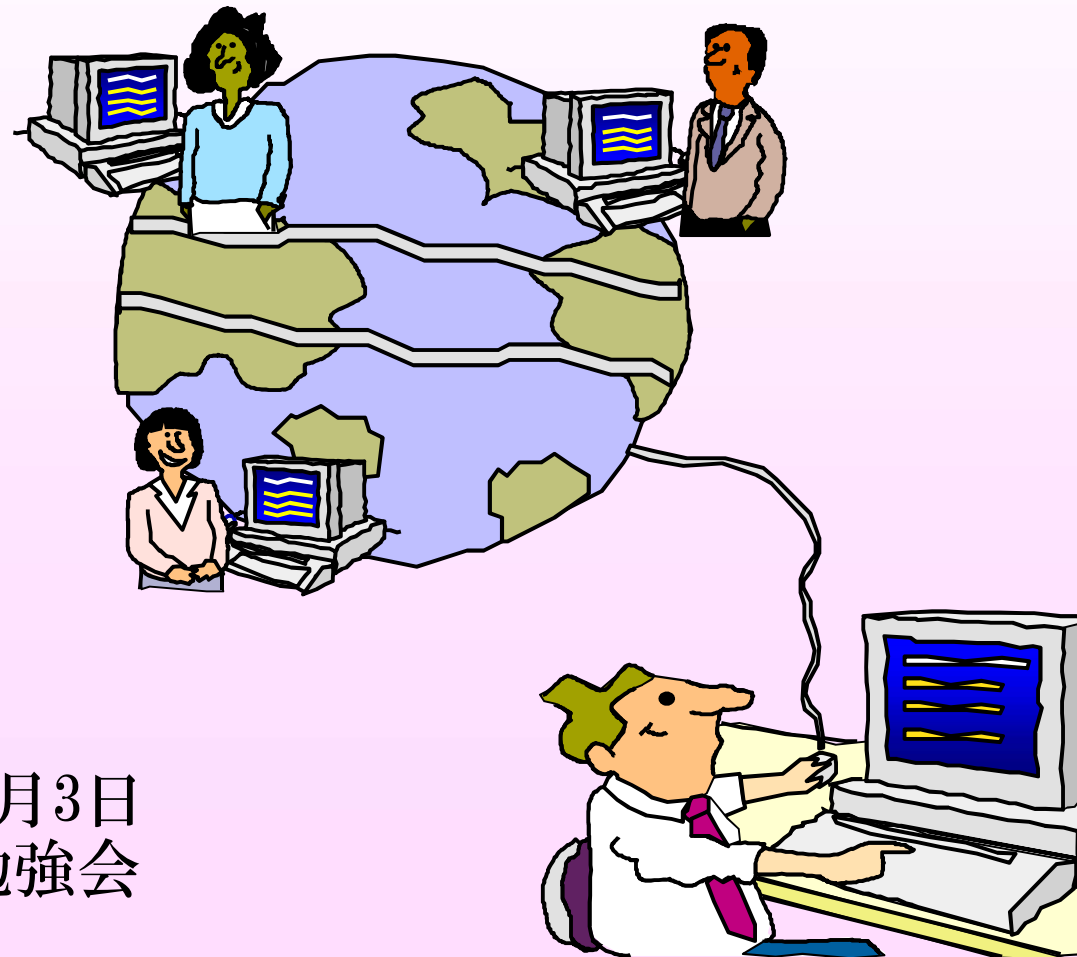


「ミーム論とIT化」

7年間の反省をふまえて



2016年9月3日
小さな勉強会

現場のIT化

イントラネット

建設業を特徴付けているもの

「現場で稼ぐから建設業」



現場のIT化とは

現場にかかわるすべての方々が
インターネット社会への適応能力を
自らのものにしようとする活動である
その意味で我われはITを利用する



つまり事務所のOA化ではない

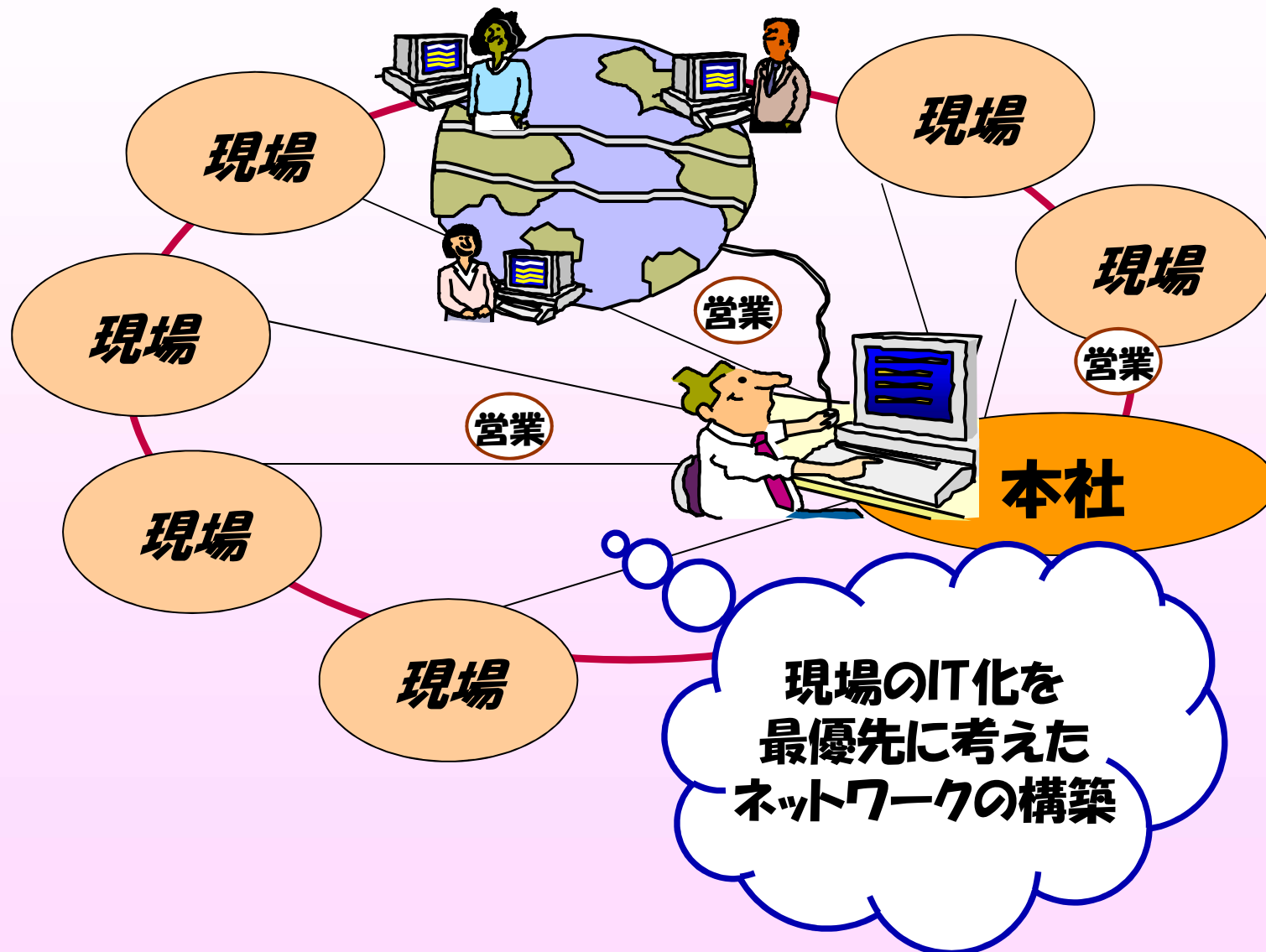


事務所の
OA化
ではない



建設業のIT化＝現場のIT化

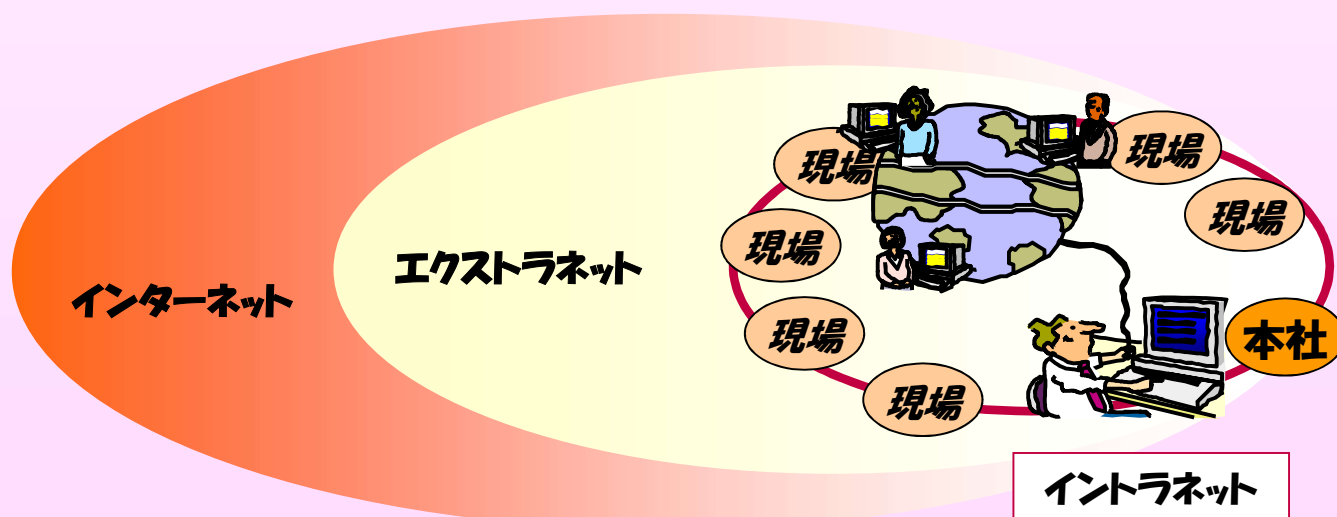
現場こそIT化実践の場



イントラネットを使うということ

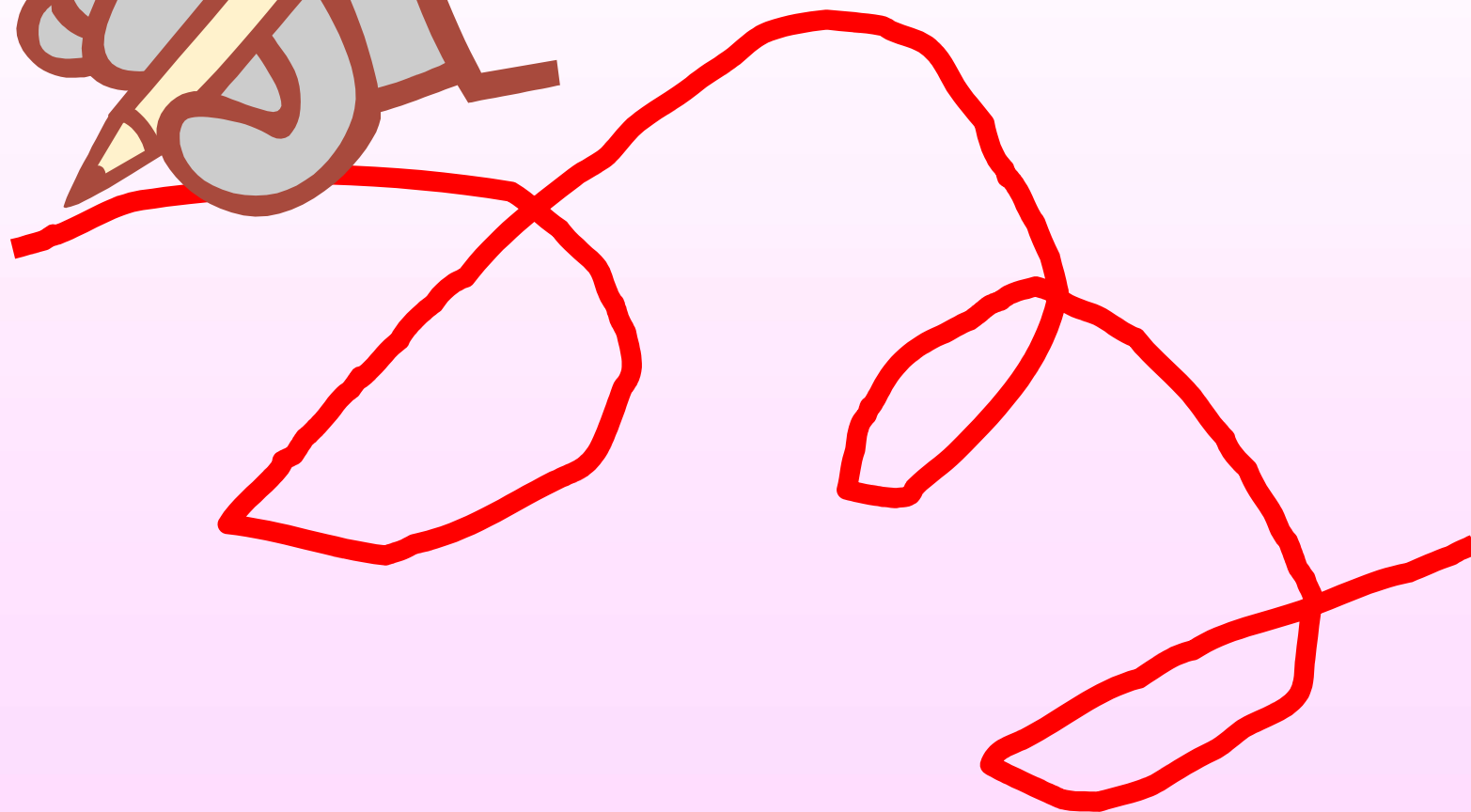
IT化の為の基本インフラ

- 全集团的な相互作用と共進化の場
→すべての構成員が対象
- インターネットとのシームレスな関係(広くて薄い紐帯への誘い)
→社会的知性・信頼・信頼性の共進化
- 「反省」の場としてのミーム培地(プール)



イントラネット=フリーハンドの表現の場

情報の共有から「反省」の場の
共有へ



イントラネットは眼鏡である

反省の場としてのミーム培地(フール)

つまり、我われはITを使うことで
今まで見えなかったものが見え始めてくる

それは相互作用の場で進化する自集団の
ミームである



IT化論

信頼のIT化

IT化のキーワード＝「信頼」

momo

**「信頼」は社会的・経済的取引の
重低音である**

- ・信頼される業界
- ・信頼される会社
- ・信頼される社員



インターネット社会というもの

インターネット社会

「情報技術」

- ・クラウド
- ・コンピュータ
- ・通信
- ・ソフトウェア
- ・データベース

IT革命

工業社会

「動力技術」

- 産業機械
- 自然科学
- 印刷技術

産業革命

農業社会

「農業技術」

- 農耕具
- 灌漑
- 天文学
- 文学

領地革命

狩猟社会

「狩猟技術」

- 石斧
- 弓矢
- 発火術
- 言語



インターネット社会というもの

情報の持つ価値のウエイトが大きくなる時代

インターネット社会

工業社会

「動力技術」

産業機械
自然科学
印刷技術

農業社会

「農業技術」

農耕具
灌漑
天文学
文学

狩猟社会

「狩猟技術」

石斧
弓矢
発火術
言語

「情報技術」

- ・クラウド
- ・コンピュータ
- ・通信
- ・ソフトウェア
- ・データベース



情報が価値を持つとは

momo

情報はただ流れている

問題は、それが

見えるか、見えないか、

である



情報が見える能力

「バカの壁」流に言えば

「**脳内の一次方程式**」

$$y = ax$$

aという係数 = 「**現実の重み**」(養老猛司)

社会的知性 = 信頼 = 信頼性(山岸俊男)



情報が見えるということ

momo

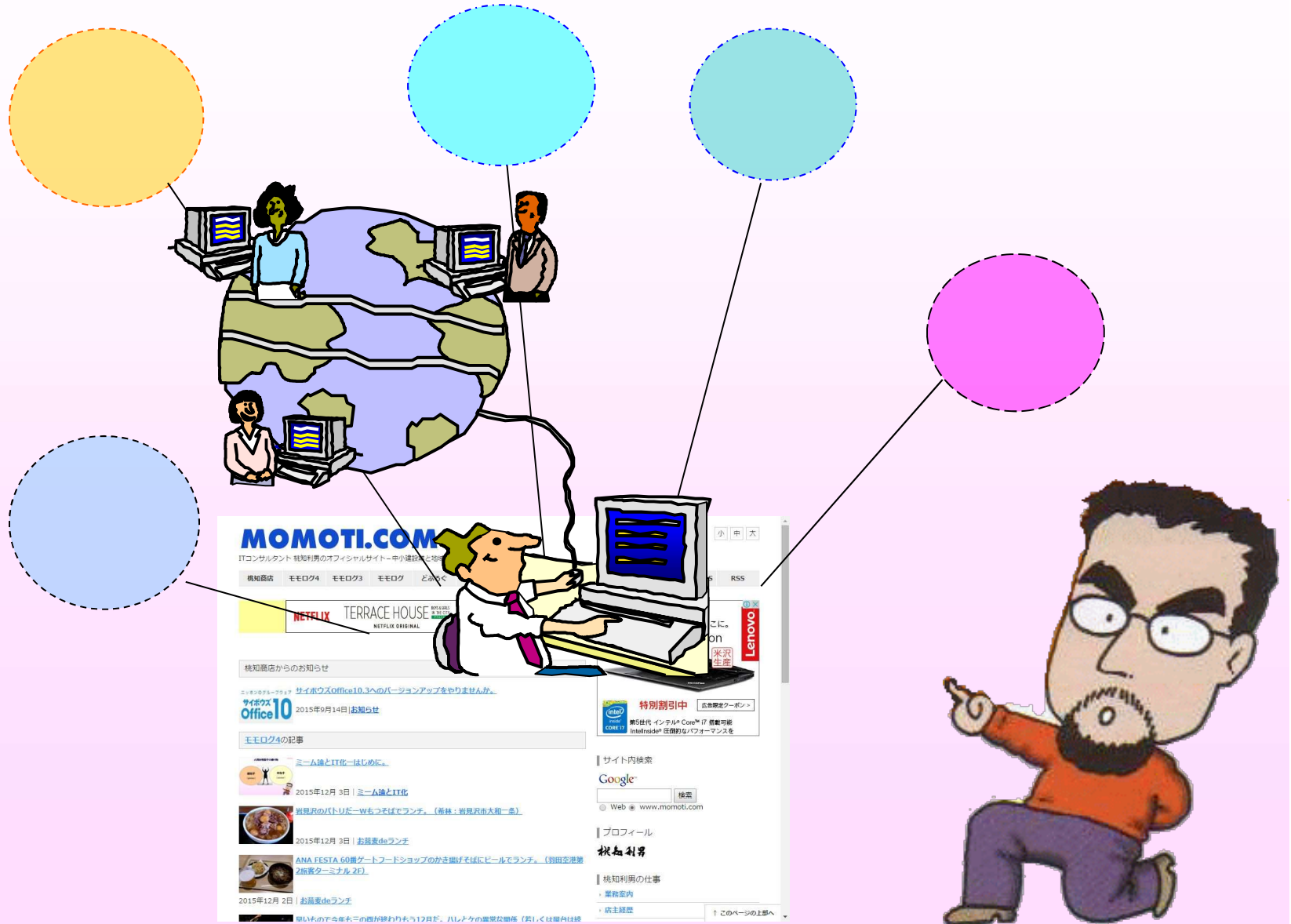
情報が見える能力(信頼)

共進化

情報を発信する能力(信頼性)



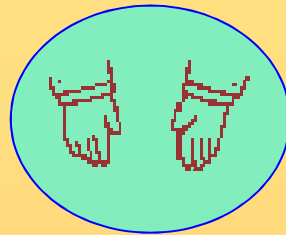
きっかけはデジタルなコミュニケーション momo



楔の仕事

コミュニティの自己拡大化

「楔」自らが所属する
他のコミュニティ

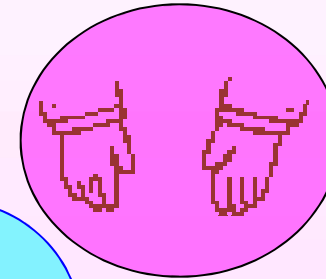
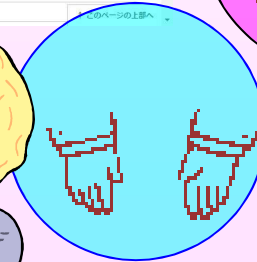
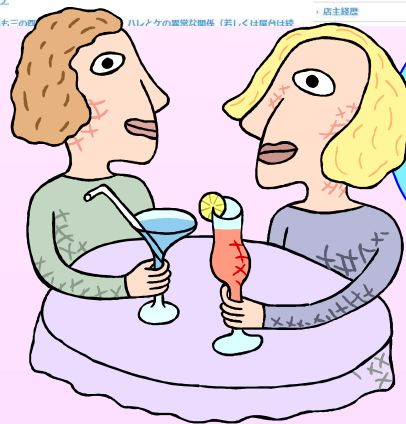
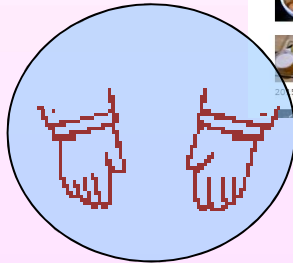
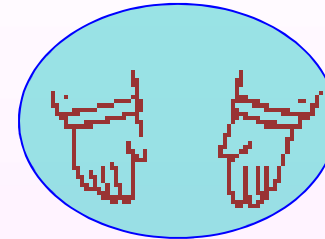


「楔」と「あかし」のコミュニティ



ソーシャル・キャピタルの芽生え 楔(くさび)と呼ばれる方々

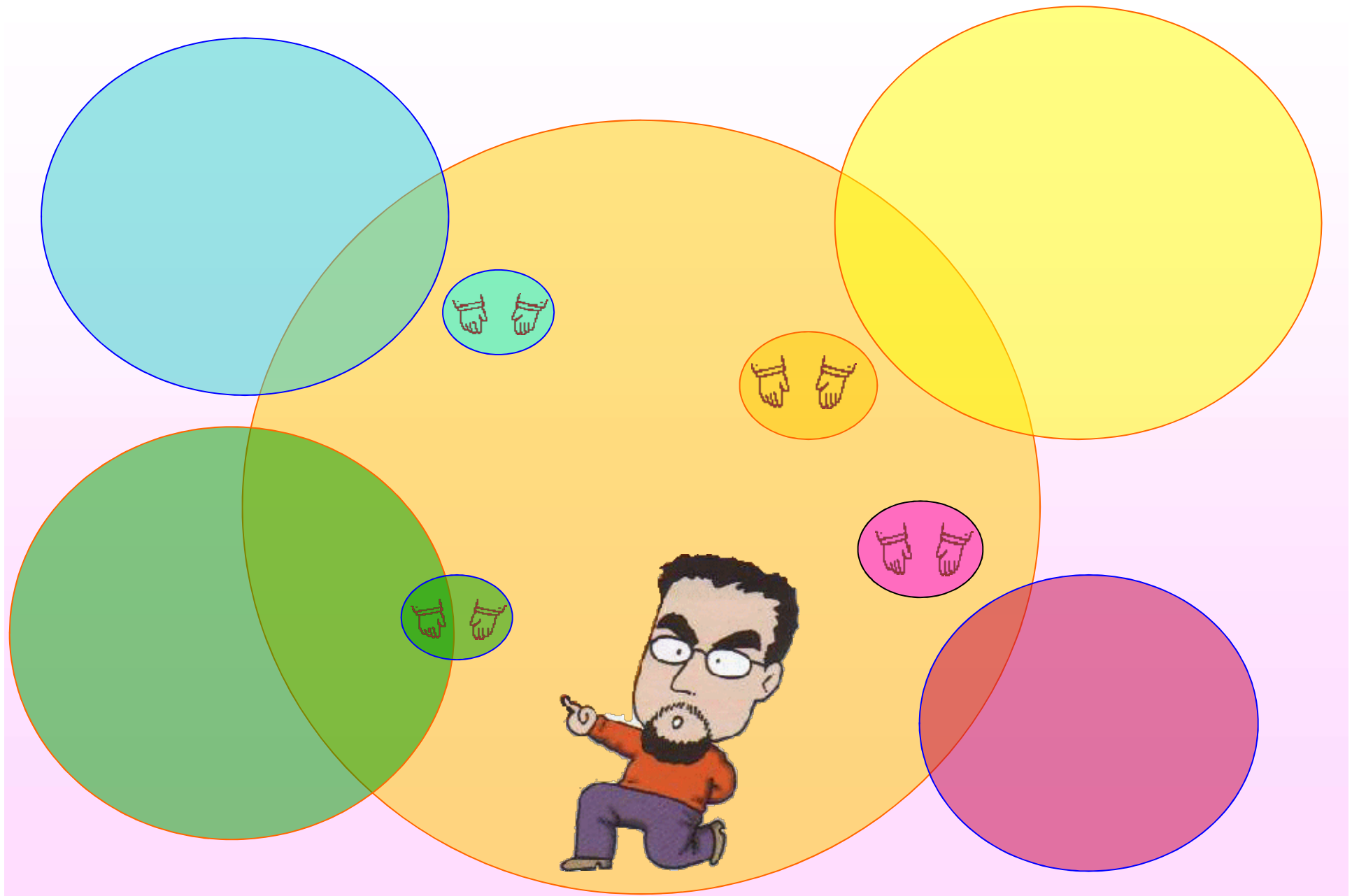
momo



F2F

共感とコミットメントの連鎖

momo



7年前脳梗塞になってしまった

momo



情報を発信する能力が落ちた

momo

情報を発信する能力

=

信頼性

が

なくなっていく



情報が見えないということ

momo

情報が見える能力(信頼)

共退化

情報を発信する能力(信頼性)



情報を発信することが減ると

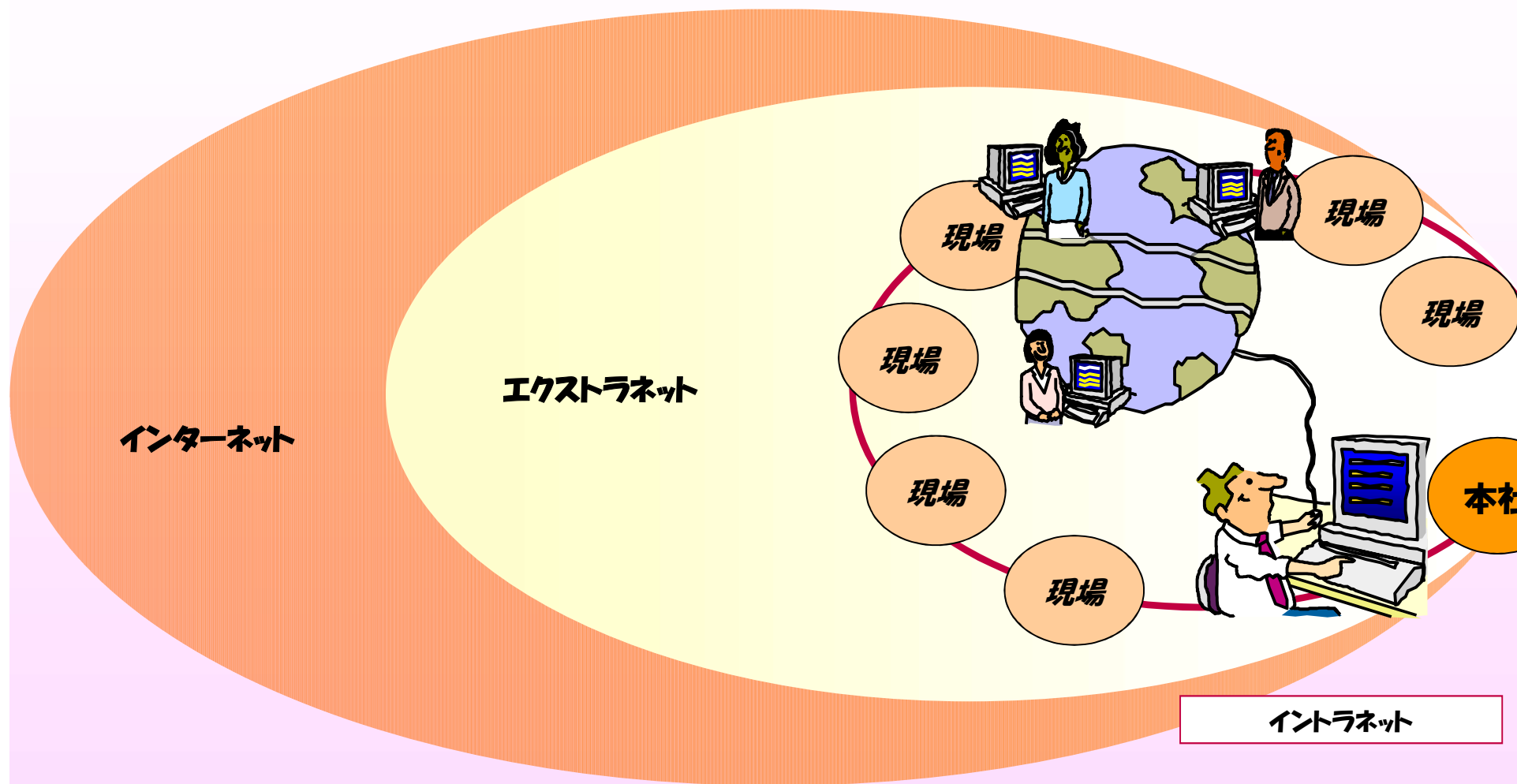
momo

コミュニティは
縮小しはじめる



IT化はイントラネットから始めよう

momo



情報を発信する
イントラネットはここから始まる
ITを使って、
自分自身のことを語ろう



ITを使った反省 「反省」

「経験」を振り返り、徹底的に「追体験」することによって、
そこで学んだ「智慧」を可能な限り言葉にしようとする方法

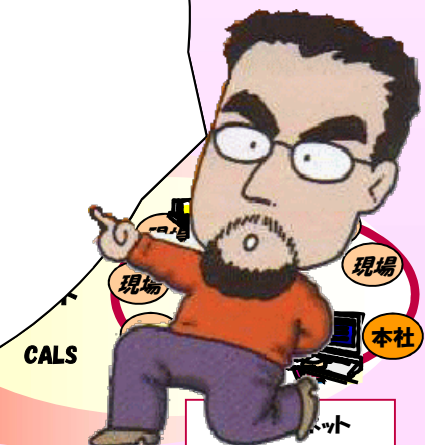
「反省」を通じて、そこで学んだことを言葉で表そうと極限の努力
をするとき、「言葉で語れる知識」だけでなく

「言葉で語れない智慧」

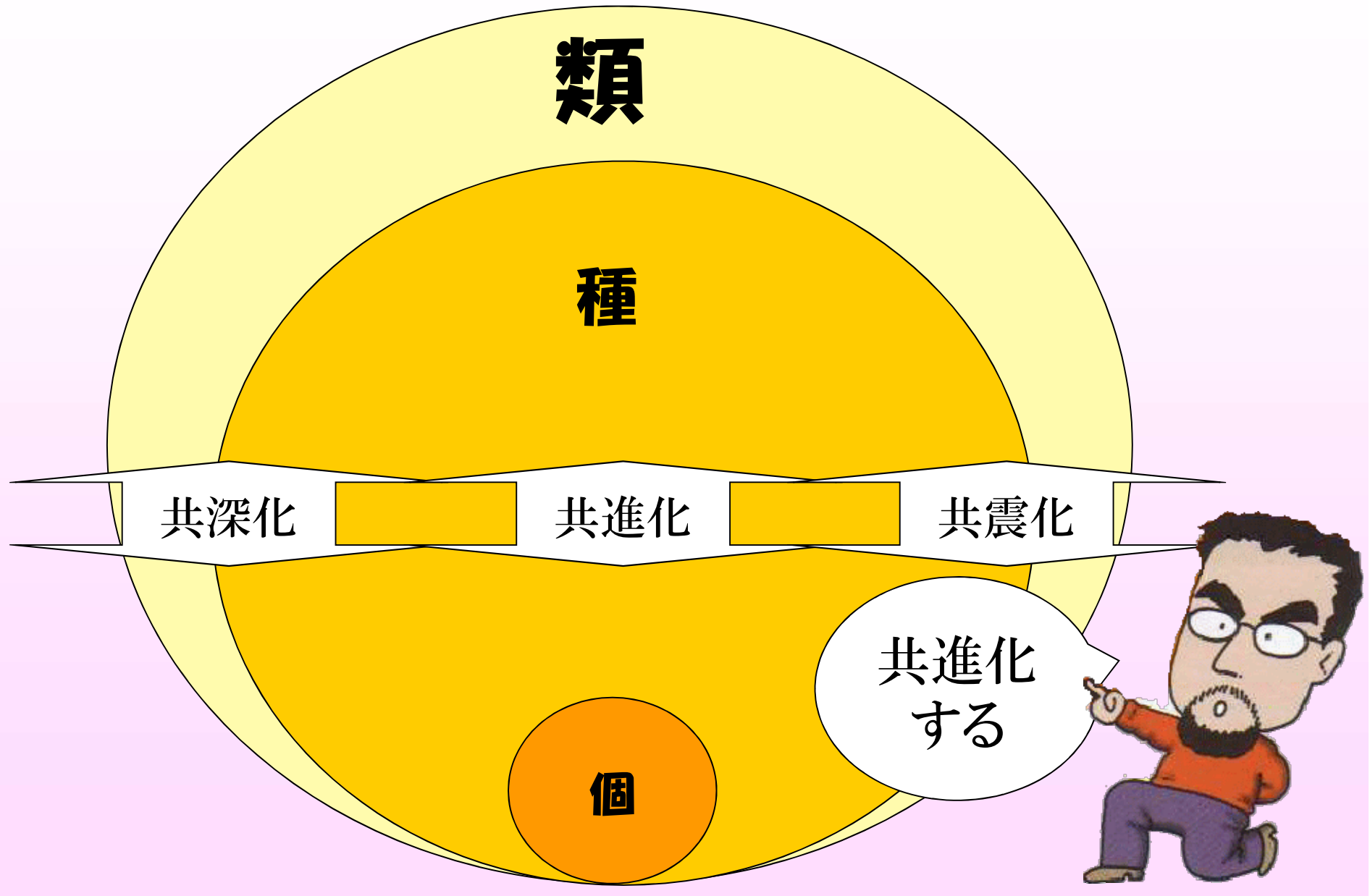
「これから知識社会で何が起ころの

IT（イント
自分自身のこと

反省の
共有化



イントラネット＝反省の共有化



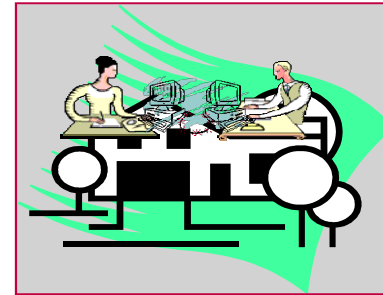
つまり、IT化する、
とは
事務処理の効率化
だけではない



環境認識の誤り

今まではOA化(事務処理)

- 集計, 転記が早くなる
- 事務処理が早くなる



今までの前提

仕事→ある

OA化→ある仕事を効率よく処理する

これから

仕事

IT化→仕事をつくるための

IT化は
なにをするのか



そして、
マニュアル化や標準化
のことだけでもない！



フリーハンドで自らを語ろう

反省の行為の共有へ



きっかけとしての協会イントラネット

momo

一般社団法人 岩手県建設業協会 ヘルプ

一般社団法人 岩手県建設業協会

組織
広報委員会IT部会 [切り替える](#)

名前

パスワード

[ログイン](#)

(注) 『組織 (〇〇支部など) 』を確認して下さい。『組織』を変更する場合は、「切り替える」をクリックして組織 (〇〇支部など) を選択後、名前を選んでから、各自のパスワードでログインして下さい。

サイボウズ Office Version 10.1.0 20140410213806 Copyright (C) 2013-2014 Cybozu



相互依存行動と相補均衡

**いじめがなくならないのは心の
問題か**

リーダーシップの重要性

相互依存行動としての意思決定

何人加勢してくれたらいじめをやめるのか

■初期条件■

Aクラス人員: 32名

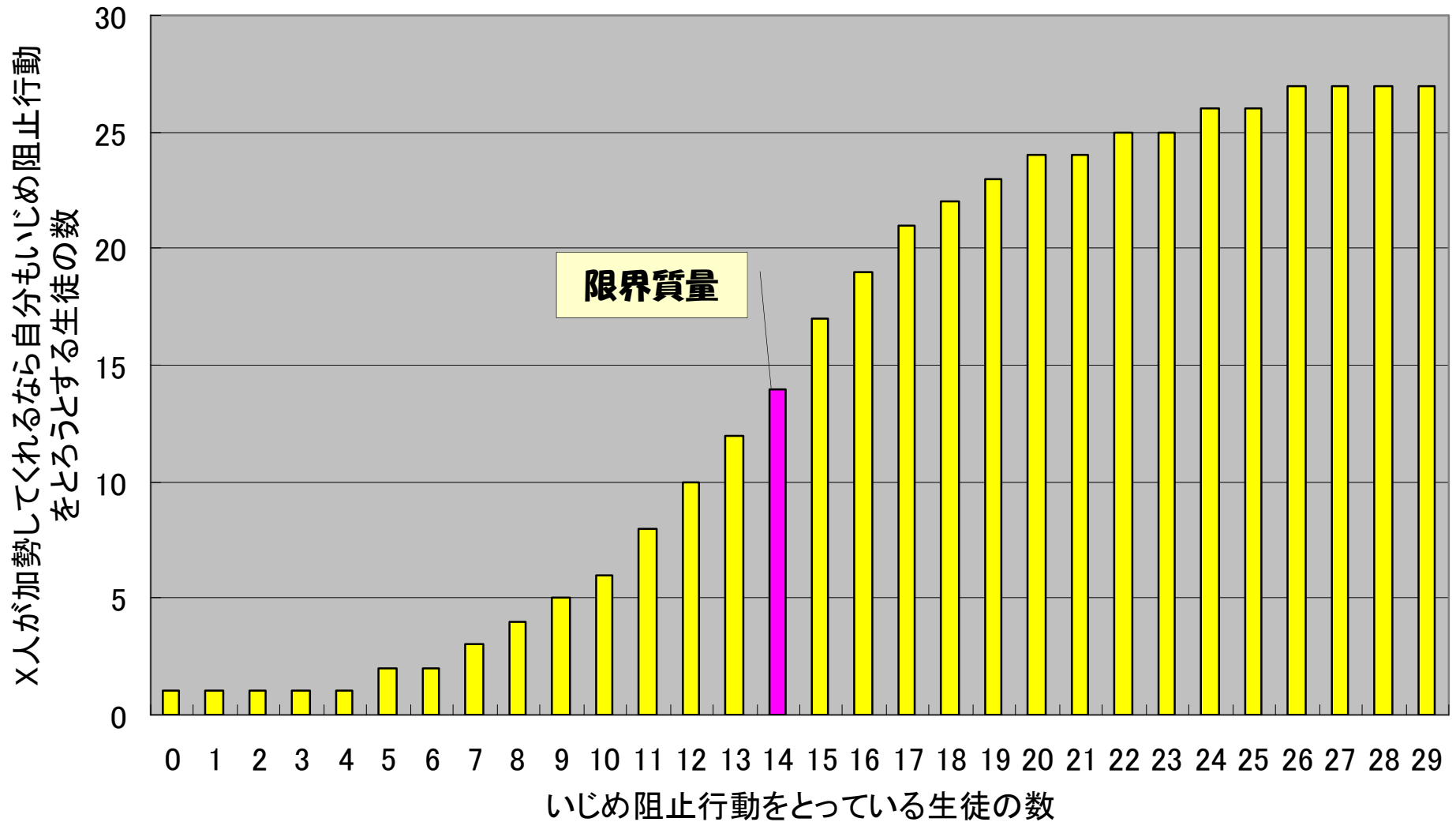
先生: 普通先生

いじめのボス: 1名

いじめの対象者: 1名

〈グラフA〉

あるクラスにおける頻度依存的な「いじめ阻止行動」の分布



熱血先生の登場

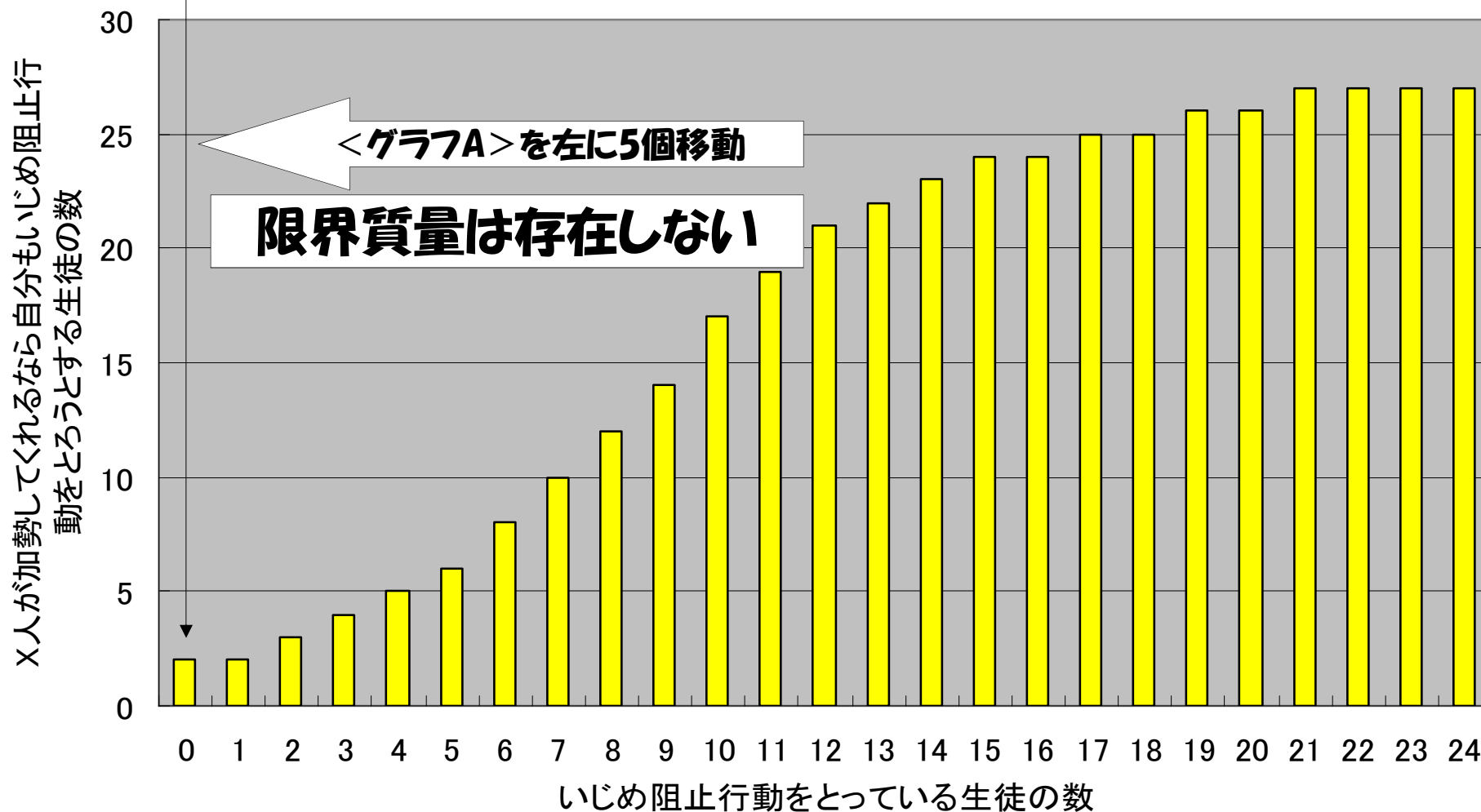
■条件■

なんらかの都合で「普通先生」から「熱血先生」に替わる。

→「熱血先生」の「いじめ」阻止への熱意は、+5人分の安心感をクラスに与える。

+5人分の安心感

＜グラフB＞
熱血先生のもとでの
頻度依存的な「いじめ阻止行動」の分布



熱血先生から普通先生に戻ると

■条件■

先生：何かの都合で「熱血先生」から「普通先生」に戻る

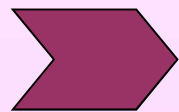
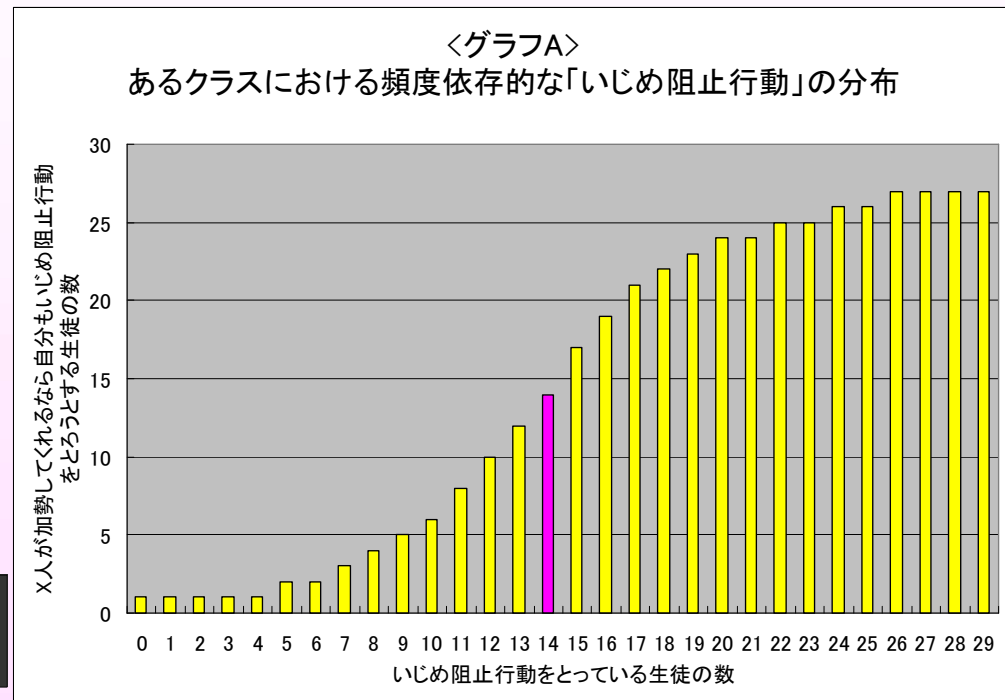
〈グラフA〉の状態に戻る

しかし熱血先生の残した初期値27人状態は継続。

→27人均衡

→「いじめ」はおきない。

相補均衡の不可逆性

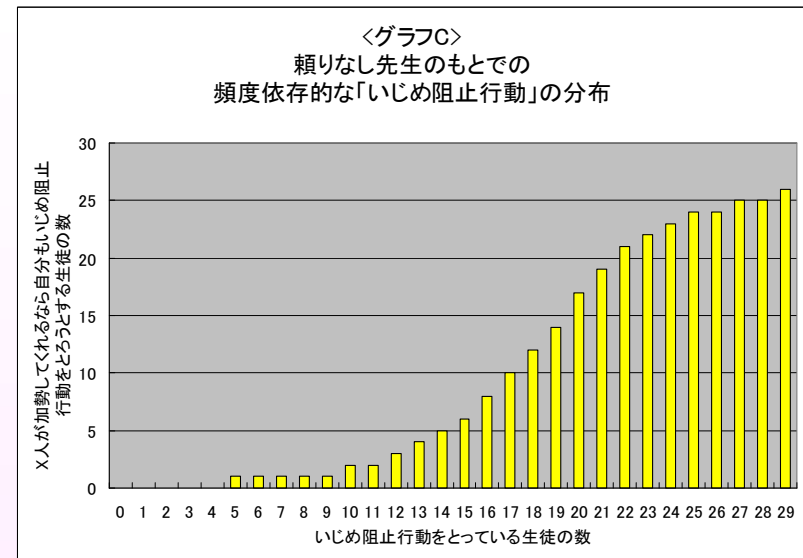


環境はもとはには戻らない

頼りなし先生の場合

「頼りなし先生」は5人分安心感を低める。

→グラフを右に5人分移動。



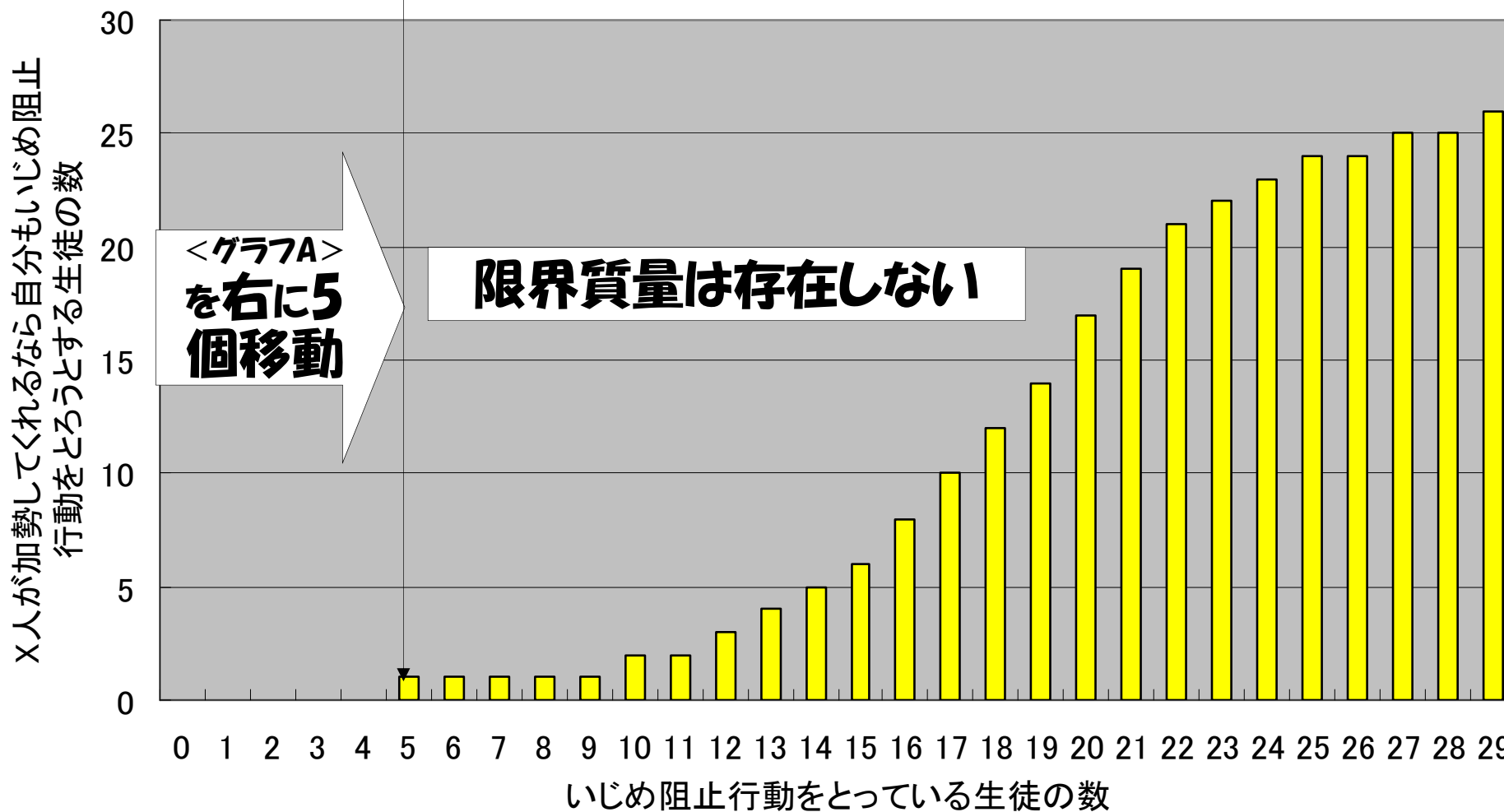
この場合も「限界質量」は存在しない

初期値がどこにあっても、結局はだれも「いじめ」を阻止しないまま多くの生徒が「いじめに」加担している、あるいは「いじめ」も見てもみぬふいをしている状態が生まれる。

5人分の不安感

〈グラフC〉

頼りなし先生のもとでの
頻度依存的な「いじめ阻止行動」の分布



頼みなし先生を普通先生に戻す

「このままでは大変だ」と校長先生がもとの「普通先生」に担任を戻した。

→グラフを左に5人分移動。

→つまりもとの〈グラフA〉に戻る。

→「いじめ」はなくなるか？

この場合の「初期値」は「0」

なので、結局はだれも「いじめ」を阻止しないにまます多くの生徒が「いじめに」加担している、あるいは「いじめ」を見てもめふりをしている状態が続く。

ゼロ人均衡→「いじめ」はなくなるらない。

相補均衡の不可逆性

ミーム

ミームとしての競争力

ミーム (文化子)



人間は複製子の乗り物

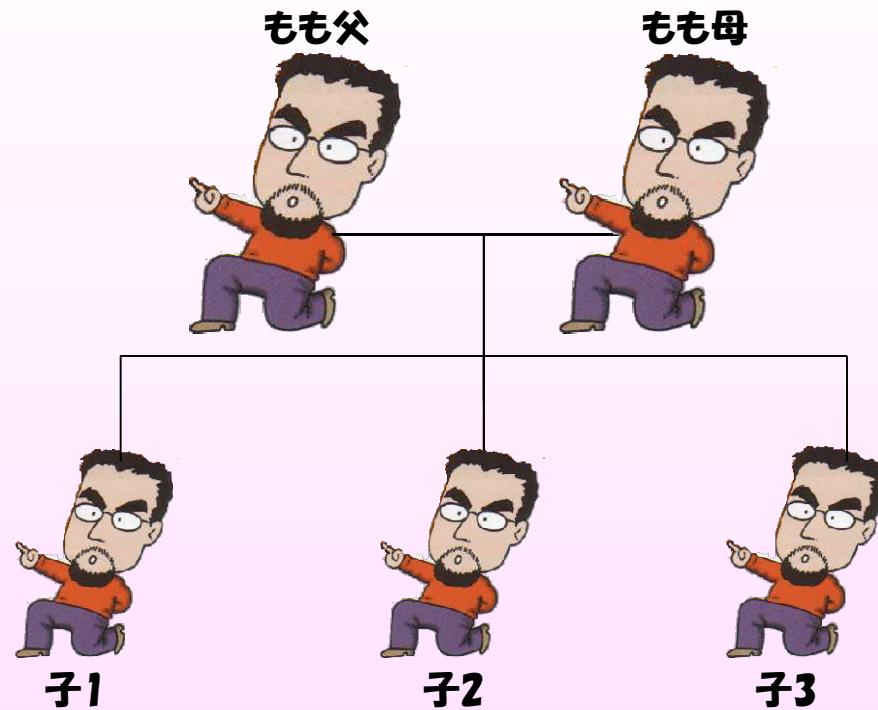
遺伝子
(gene)



文化子
(meme)



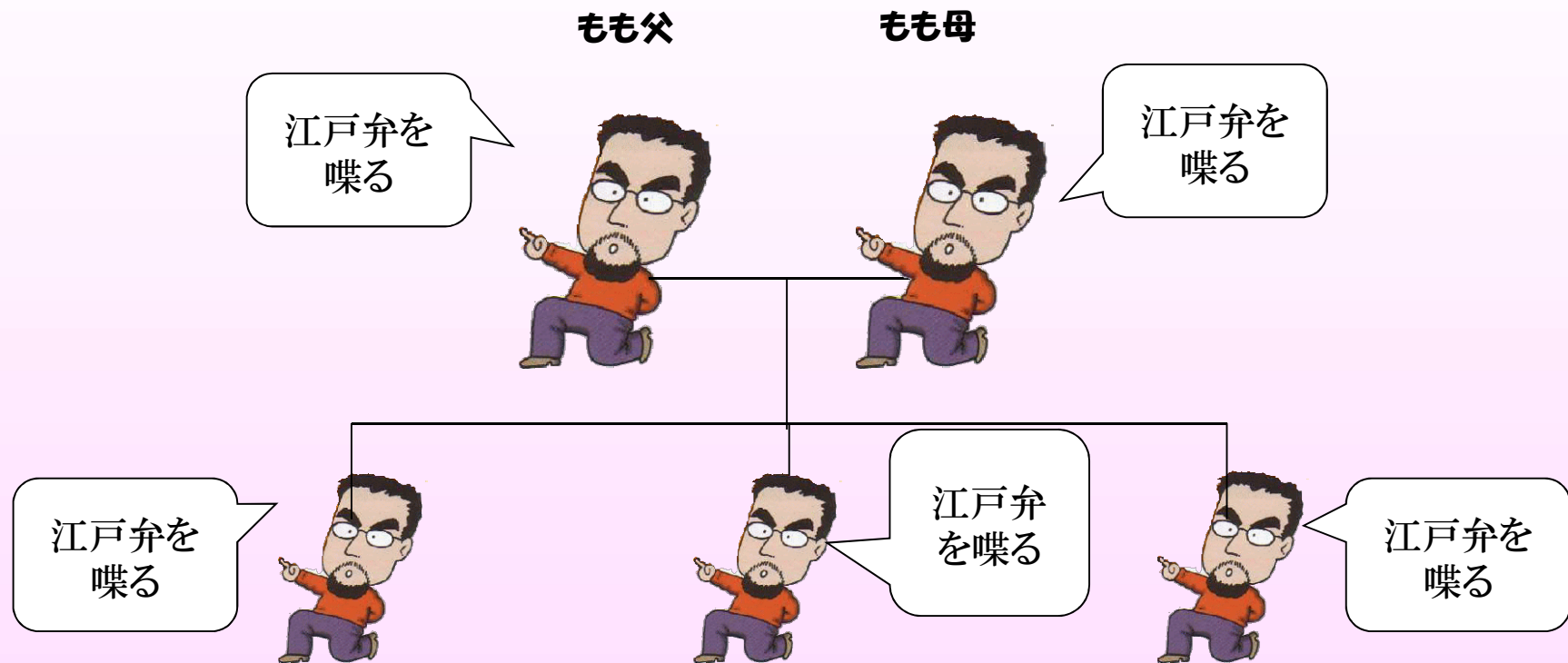
遺伝子という複製子



遺伝子：生物学的な特徴を複製する複製子

ミームとは(遺伝子からのアナロジー)

たとえば方言の伝播



ミームの存在

生まれてすぐにニューヨークへ里子にだされた子供は江戸弁を話すのだろうか

江戸弁はダメ
でも英語はOK



遺伝子には「江戸弁」や「英語」を喋るという情報はない

文化的な情報を複製する複製子が存在する =
ミーム : meme (文化子)

ミームの特徴 1

たとえばよくある話

江戸弁を喋る



ミームの特徴1

たとえばよくある話

江戸弁を喋る



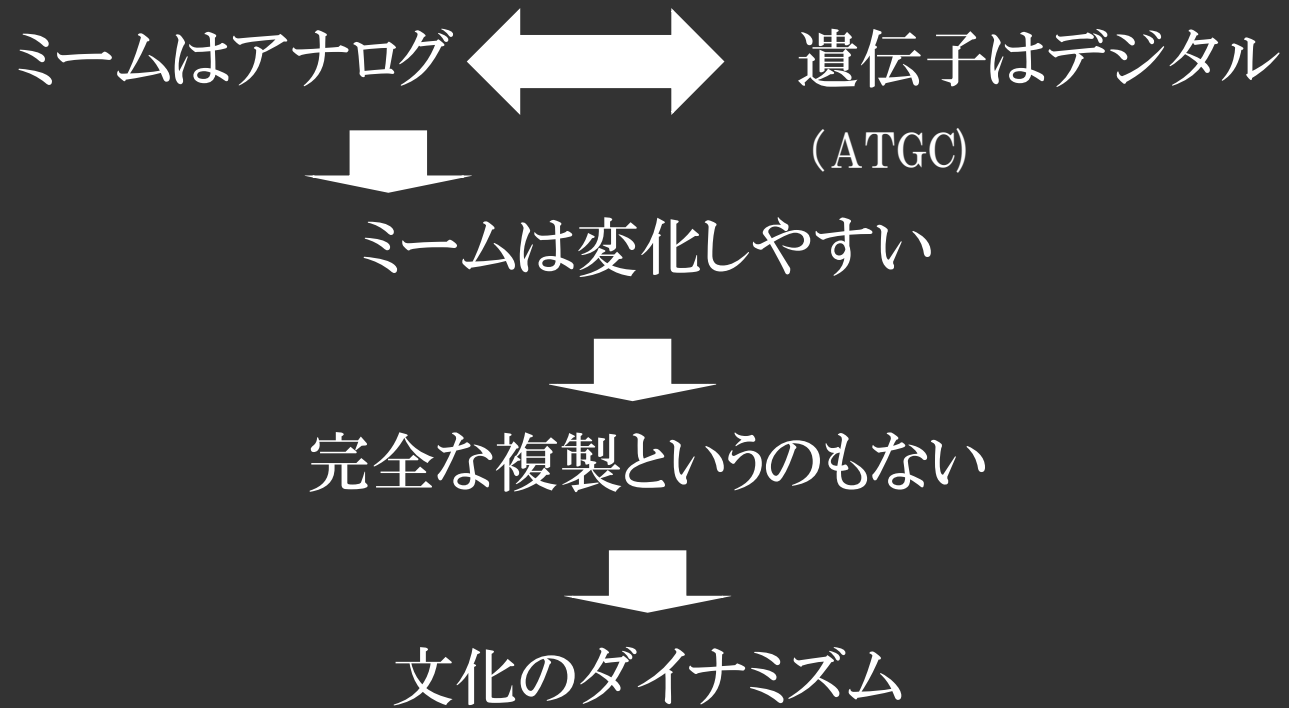
いつのまにか関西弁に
なったりする

けれど、江戸弁のイント
ネーションが時々でる



ミームの特徴2

たとえばよくある話



ミームの特徴3

進化

短期的な環境変化に対応するのはミーム



遺伝子による環境変化への対応

環境変化への遺伝子とミームの対応

たとえば・・・浅草の年間平均気温が氷点下になったとしても
・・・皆さんは遺伝子的には対応はしない

遺伝子的に対応する
ところなる・・・

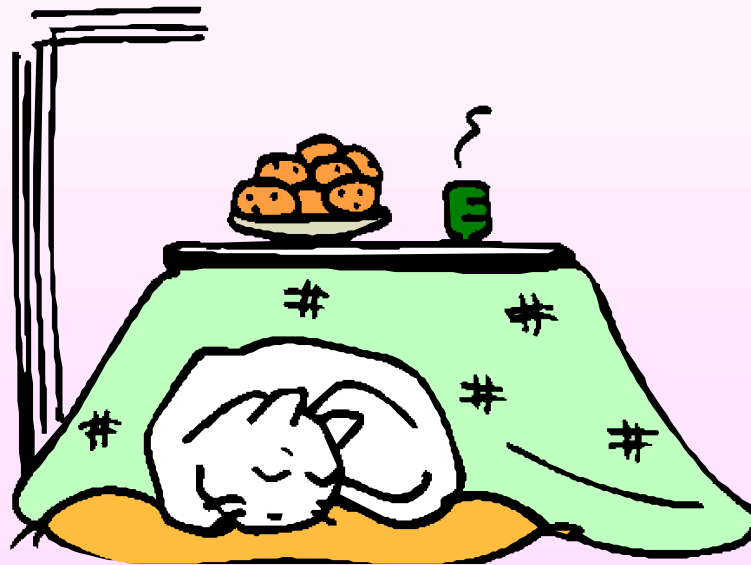
遺伝子的に対応するには時間がかかる



ミームによる環境変化への対応

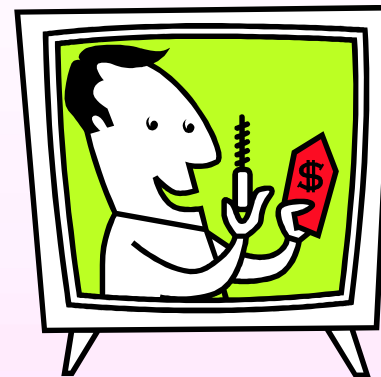
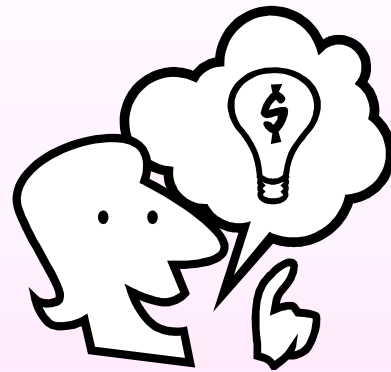
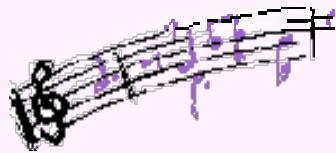
環境変化への遺伝子とミームの対応

でも、ミーム的には対応している...



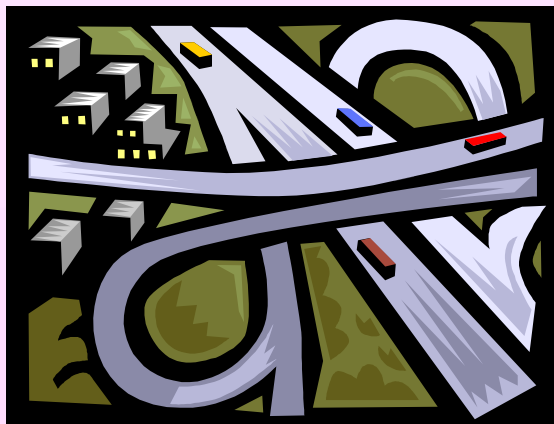
こんなのもミーム

旋律、アイデア、キャッチフレーズ、服の流行、ティーポットの
のつくり方、橋のつくり方 (by リチャード・ドーキンス)



建設技術もミーム

つまり、皆さんや会社が持っている
技術(力)というのも「ミーム」である



人間は複製子の乗り物

遺伝子(ジーン)

乗り物はDNA

変化しにくい

デジタル(ATGC)

生命を伝達

物的相互作用



文化子(ミーム)

乗り物は脳みそ

変化しやすい

アナログ

文化を伝達

情報的相互作用

複製子とは情報である

「IT化」が扱う情報の主体は
「ミーム」である



あなたもミームの乗り物である

と同様に

組織や企業にもミームが存在する

適合と淘汰

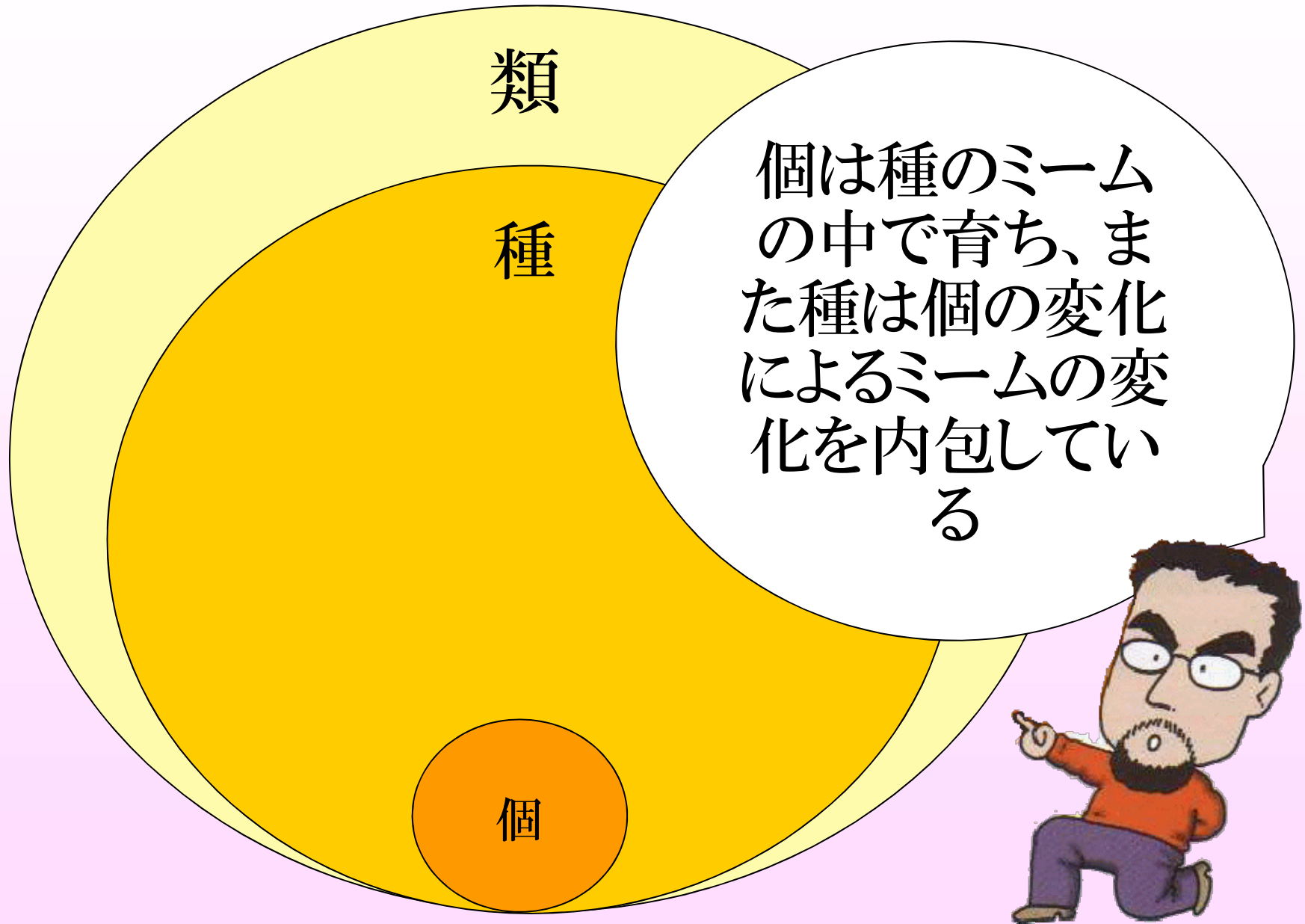


主流のミーム

組織文化
社風



種の論理



ミームの伝播 = 相互作用

人間社会とは複数の主体（個人や複合主体）が相互作用で結びついたもの

相互作用

A 物的相互作用

身体的直接干渉・事物のやりとり

B 情報的相互作用

言語，表情，身振り，画像，音楽

第一種の情報的相互作用，超越論的な枝の情報

手段的

第二種の情報的相互作用，解釈学的な蔓の情報

本質的

手段的情報

何かの他の目的のために役立つ情報

本質的情報

それを持つこと自身が値打ちをもつ情報

（出典：村上泰亮『反古典の経済学要綱』1994年，中央公論社）



売買(経済的交換)とは

市場を「売り手」と「買い手」の立場から鳥瞰すれば

売り手

情報的相互作用

買い手

技術のミーム

商品力

技術・組織力

ブランド・アイデンティティ

信用

and etc.

消費のミーム

顧客の持っている

買いたいという気持ちの束

「空気」

物的相互作用の成立



我々が売っているものとは

技術のミーム



市場は情報の相互作用の場

経済的交換 (exchange) を構成する情報とは



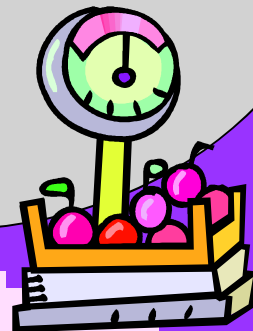
物的相互作用



情報の相互作用

価格と量の情報

第一種の情報



経験と解釈と信
頼の情報

第二種の情報



メタ情報としての信頼という情報

「能力」に対する信頼

ふぐの調理免許

「意図」に対する信頼

夫は浮気をしない



交換の底辺に流れる重低音

(出典：山岸俊男『信頼の構造』1998年，東京大学出版会)

意図に対する信頼二分類

けん制装置付の
「意図」に対する信頼

安心

相手の人格的な
「意図」に対する信頼

信頼

大切なのは
こっちね



信頼をメタ情報とした商品 = のれん

技術のミーム

のれん

(人質としての信頼の担保)



のれん

(人質としての信頼の担保)

【暖簾分】

その店に長く勤めた店員に、
同じ屋号の店を開くことを許
す(し、物心両面に相応の支
援をする)こと。また、そうして
出来た店

消費のミーム
からの暖簾分



公共工事という産業の かつての「のれん分け」

- ・建設業許可
- ・技術職員の数
- ・経審の点数
- ・営業年数
- ・ISO9000's, 14000

等々, お役所さんから言われた,
まあそんなもの...

中小建設業の
能力の信頼
意図の信頼

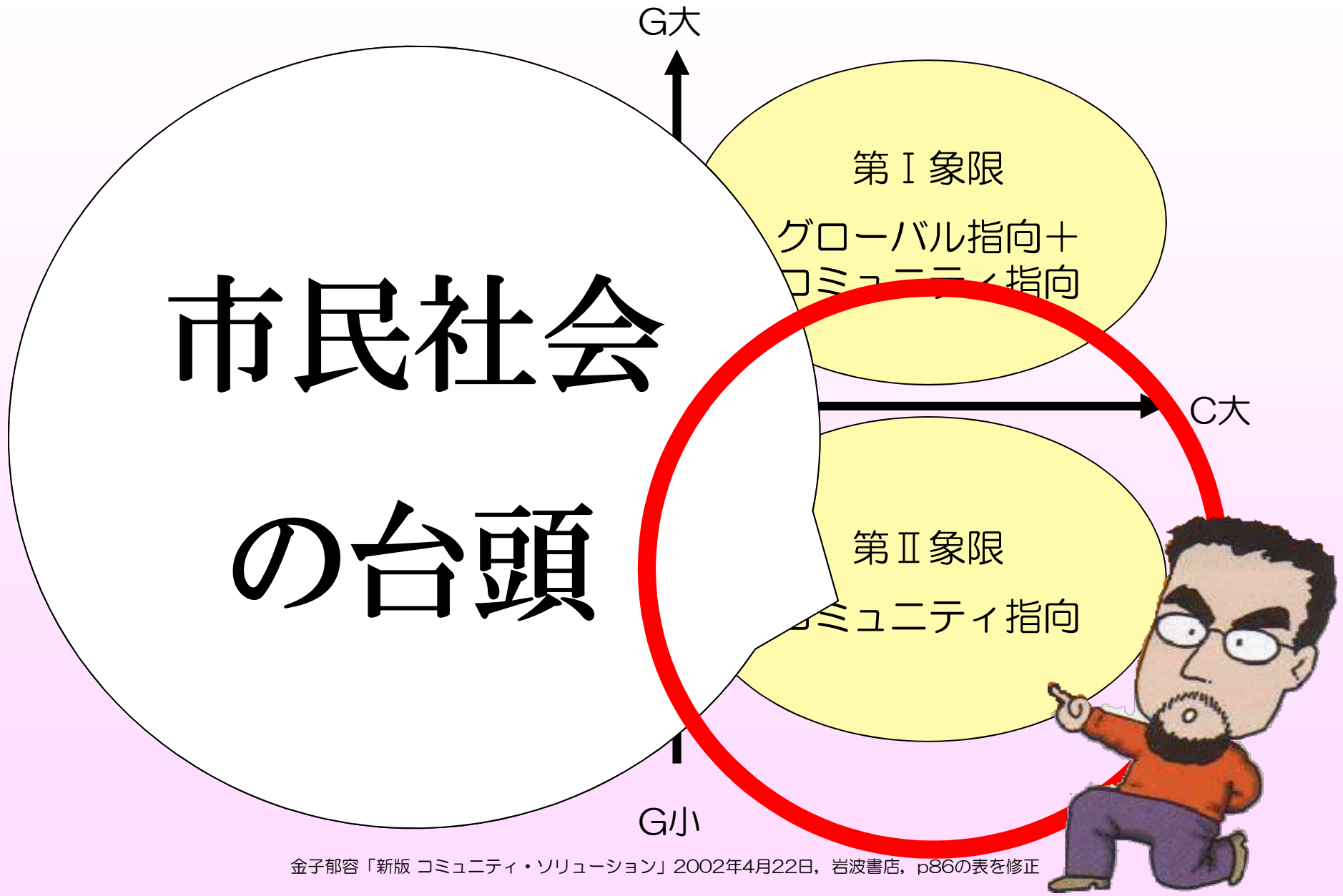
=

発注者
能力の信頼
意図の信頼

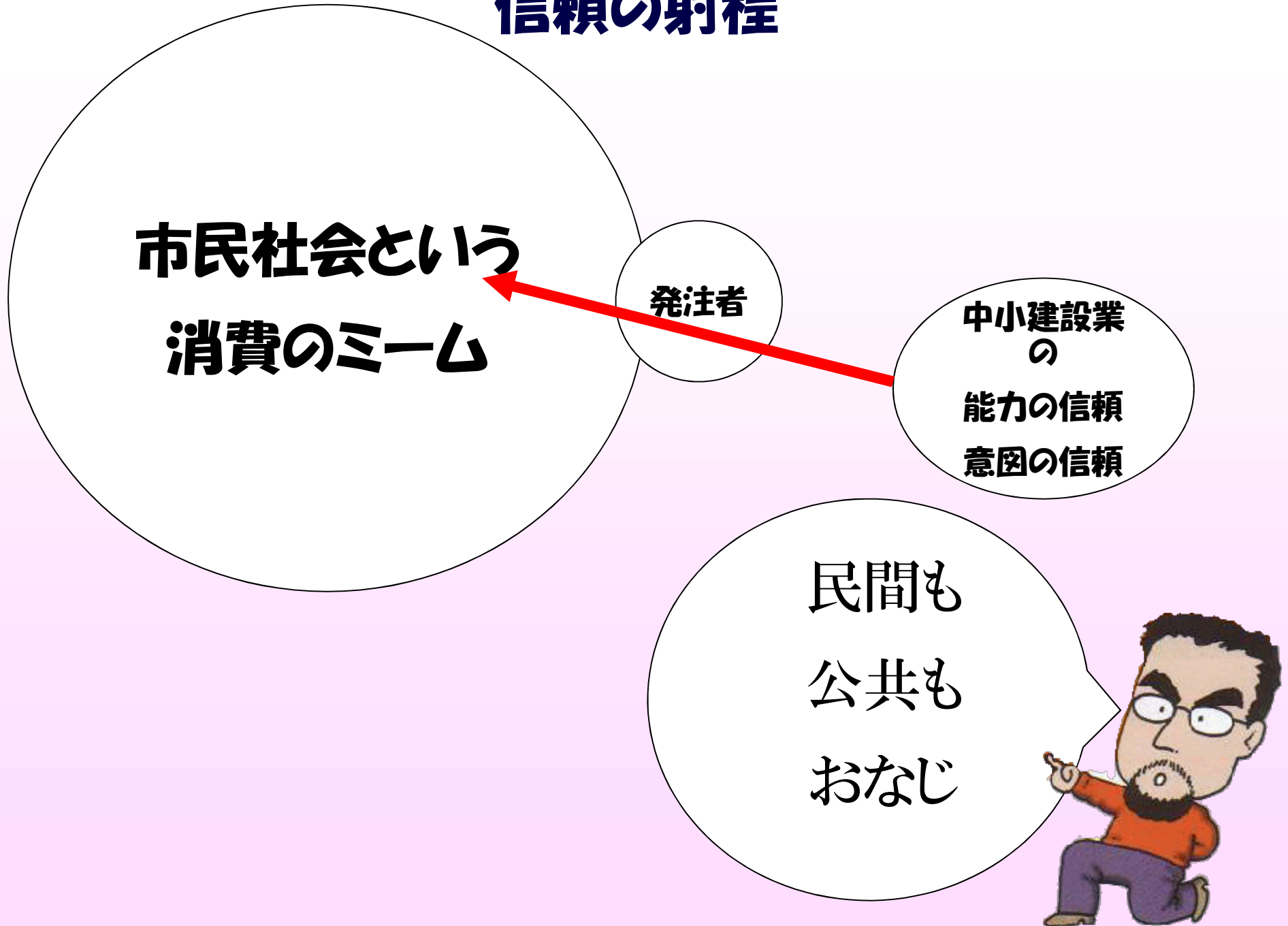
消費のミー
ム = 発注者



市民社会の台頭



信頼の射程



市民社会に向けて

- ・建設業許可
- ・技術職員の数
- ・経審の点数
- ・営業年数
- ・ISO9000's, 14000

等々, お役所さんから言われた,
まあそんなもの...

中小建設業の
能力の信頼
意図の信頼

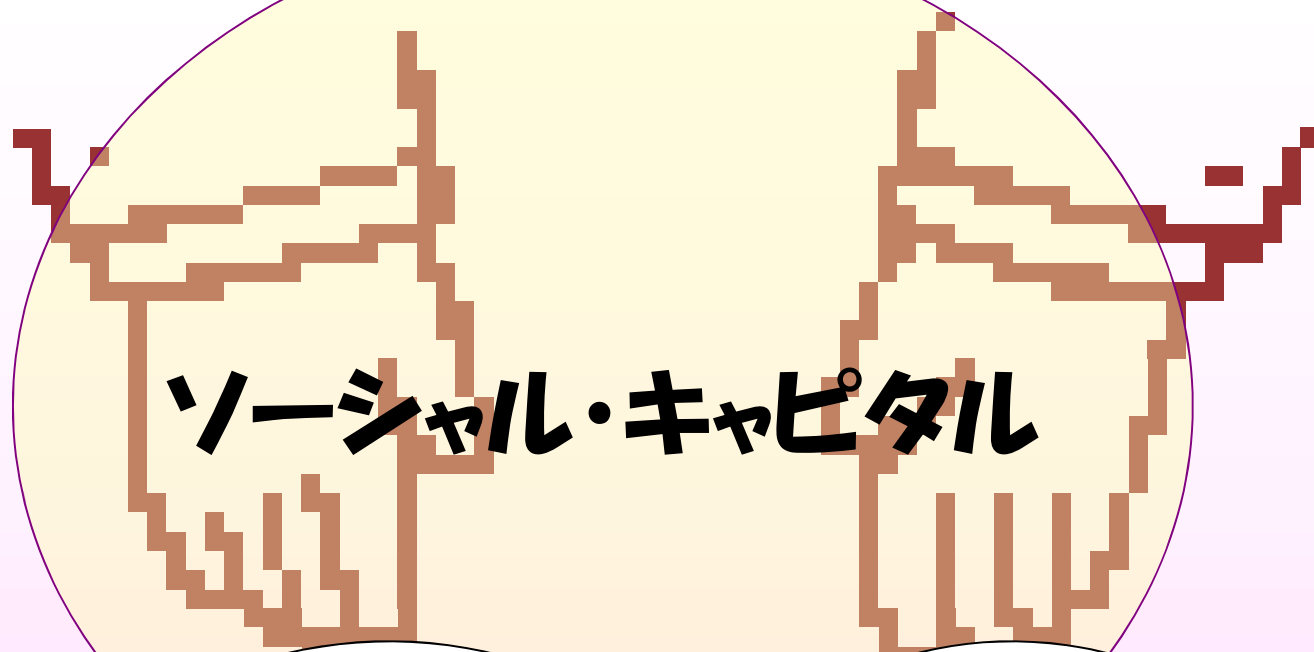
=

発注者の
能力の信頼
意図の信頼

市民社会という
消費のミーム



共感とコミットメント



ソーシャル・キャピタル

コミュニティ
ソリューション

結びつける
力



コミュニティ・ソリューションの秘密

ミームによって運ばれる

感動と

人間性に対する

信頼感の伝承が

コミュニティ・ソリューションの秘密である

(金子郁容 『コミュニティ・ソリューション』,2002,p160)

ミーム



もちどっこむ

ご清聴ありがとうございました。

情報システムコンサルタント

桃知 利男



E-mail pinkhip@dc4.so-net.ne.jp

URL <http://www.momoti.com/>

ご面倒でも私宛の連絡はメールでお願いいたします。